

ベ ス ト ピ ア
Bestopia

「パリ通信 20号」

ベストピアは小原靖夫の
個人誌です。

平成
二十五年八月
第二十号

< 2013年 8月 >

古賀 順子

プラハ

7月からパリは記録的な暑さになりました。北へ行けば少しは避暑になるかと期待したプラハでしたが、連日35度前後の猛暑。ヨーロッパ全体が暑い夏です。

パリから飛行機で1時間45分。1987年に一度だけ訪れたプラハは、とても遠かった記憶があります。当時はまだ共産主義政権下で、観光もホテルも制限され、ウインドーには物がなく、人も街も暗かった、そんな思い出でした。今回のプラハは、まったく違っていました。

プラハ城内にあるゴシック様式の聖ヴィート大聖堂、ストラフォフ修道院のバロック様式の図書館、フランク・ゲーリー設計「踊るビルディング」、中世から現代までの建築が共存するととても美しい街に変化していました。旧市街は観光客で溢れ、アール・ヌーヴォー、アール・デコのカフェやレストランの賑わいは、西の国と何ら変わりありません。見慣れたパリの街並から突然おとぎの国に来たような、新鮮で物珍しい気持ちで街を歩きました。いままで遠かった場所が突然近くに思えました。そして、1975年パリに亡命し、81年フランス国籍を所得した作家ミラン・クンデラ(1929-)を読みました。祖国で起こっていることからだんだんと疎遠になっていく主人公たちの思いは、理由は異なれ、パリの異邦人たちの思いと重なります。加速度的に人が移動する今日の社会で、帰還や望郷の念が果たして意味を持つだろうか。クンデラは問いかけています。その答えは分かりませんが、個々人の心は、各民族が生きて

きた歴史や政治に結びついた土地に根ざしていることは確かではないでしょうか。

パリに戻ると、8月6日広島原爆投下記念日のニュースが流れていました。皮肉なことに、その日、東京電力が福島原発の水汚染の記者会見をしています。広島、長崎を生きる日本人は、福島にもっと思いを向けなければならないと改めて感じます。ミッテラン政権下で政府特別顧問を務め、経済学者、文筆家でもあるジャック・アタリ(1943-)の記事を紹介したいと思います。

福島は狂っているのか？

福島原発は我々の脅威。G8で取り上げるべき問題だ。

2011年3月11日の大惨事(マグニチュード9の大地震と高さ15mの津波)によって大破した福島原発事故による健康への影響は、日本以外には及んでいないかのようなのである。日本国内においても、放射能許容度を超える食品は流通していないことになっている。

しかし、日本での調査(すべてが翻訳されているわけではない)によれば、福島原発は制御されてはいない。まず、毎日400トンの海水が発電所に流れ込み、汚染され、すでに汚染されて溜まっている28万トンの水量を増やしている。発電所内には、汚染度が非常に高い何トンもの機材がある。現場で作業をしている人たちの情報によれば、溶解した3つの原発炉の放射能濃度は、1号機が800ミリシーベルト、2号機880ミリシーベルト、3号機1510ミリシーベルト。1000ミリシーベルトを超える値は、人命を死の危険に曝す。4号機に関しても、極めて不安定な状況で、14225バールの放射燃料値を示している。

チェルノブイルは、30万人（内3万人が軍隊）を動員して、7ヶ月後には地上ドームで覆った。これに対して、福島では、決死の作業員でも数秒とは耐えられないほど放射濃度が高い。さらに、発電所の破損がひどすぎて、ロボットも思うように使えない状況だ。

福島原発から半径15km以内に人は住んでいない。そこからやや離れた場所では、白血病と乳癌の値が上がっている。1km離れた海では、1kgにつき2000ベクレル（許容値の4倍）の値が魚から検出された。許容値の7400倍のセシウム量が検出された魚もあった。プランクトンや、汚染された海底の泥を摂取する小魚によって汚染は広がる。福島から120km離れた海で採った魚から、1kgにつき380ベクレルが検出されている。

国際原子力機関(IAEA:International Atomic Energy Agency)によれば、除染は最低40年かかるという。除染が終わる前に、発電所が解体する危険がある。現に外覆の構造体は解体しつつある。さらに、専門家の間では、阪神沖、または福島沖で近い将来、高さ10mの津波を引き起こすマグニチュード6を超える海底地震の可能性を予測する者もいる。その場合、冷却装置は破壊され、防波堤も大破し、28万トン以上の汚水が海と地下に流れ込み、4号機も倒壊するだろう。関東地方の3000万人を退居させる必要が出てくる。その影響は日本だけに止まらない。

最後の問題として、津波による瓦礫が「富士山2つ分の量」海底に漂っていることである。日本の技術では、水深30mまでしか瓦礫回収ができない。大半の瓦礫は海に沈んだままである。

日本人は、彼らだけの技術で手に負えないこうした問題を最小限しか認めない。人類を脅かす結果を招かないために、地球全体の動員が必要だ。福島の問題は日本だけの問題ではなく、世界全体の問題であることを6月のアイルランドG8で決議しなければならない。

「L'EXPRESSE (エクスプレス誌) 3227号」(2013年5月8日号) ジャック・アタリ